

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600767		
法人名	医療法人社団 悠久会		
事業所名	グッデイすぎないグループホーム		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町15-1		
自己評価作成日	平成21年7月28日	評価結果市町村受理日	平成21年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町中に位置している事で地域住民との関わりやつながりが継続的に行なうことができ、利用者の生活環境を大きく変えることなく、日常生活を送る事ができる。医療との連携が密接であり、異常時、緊急時、終末期などのそれぞれに対応にきめ細かく対応する事ができる。又、事業所との連携も密に行なう事ができる事で利用者とその家族に多様なサービスを提供できる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域であたりまえの生活ができるように職員と管理者で話し合い理念を作り、理念に基づくケアを目指している。ホームの夏祭りには地域に開放し、町内のラジオ体操の場所として駐車場を提供したり、廃品回収の手伝いをするなど地域の一員としての役割を果たしている。老人クラブ、保育園児の訪問やデイサービスに通ってきた人が訪ねて来たり、八幡祭りには利用者が『輪くぐり』に参加するなど地域に根ざしたホームである。かかりつけ医との連携も取れており、管理者、職員はいかに家族に満足してもらい、利用者の自立支援への手伝いができるか日々努力をしている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600767&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年9月9日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム会議にて職員とともに理念について話し合い、毎日の申し送り時に唱和することで職員に意識づけをし実践できるよう努めています。	地域であたりまえの生活ができる事を願い、管理者、職員との話し合いで理念が作られた。共有空間に貼られ、誰もがいつでも見ることができ、職員は理念を意識し、日々ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の中心に施設があり、自然に隣近所付き合いができています。また施設のイベントには積極的に参加してもらっている。	利用者のほとんどが地域内に在住していた経緯があり、八幡祭りへの参加、保育園、老人クラブからの訪問を受けたり、駐車場を町内のラジオ体操の場所に提供するなど地域との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHで生活している利用者の理解を求め、老人会や町内会とお互い行事の案内や声掛けをして交流を深めている。また緊急時には一時避難場所として提供し、町内会のお手伝いも利用者も交え積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、老人クラブ、民生委員、地域包括センター等の代表に参加していただき意見や要望など話し合いサービスの向上に努めている	運営推進会議で成年後見や介護計画、外部評価について話し合っている。意見や要望に職員の名前が分からないという声があり、エプロンに名前を縫い付けて改善するなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営を行う中で疑問があれば、その都度アドバイスを頂いている。また役場等も「お知らせ」等は郵送ではなく直接もって来ていただけ常に連携できている体制をとっている。	ホームたよりを届けたり、管理者、ホームとしての疑問や情報を得たい時、困ったことがあると役場に出かけ相談するなど、常に協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等にて拘束について話し合い正しく理解し取り組んでいる。	日々の会議の中でテレビ放映番組や他の施設等の身体拘束について話し合いをしている。エレベーターの入り口は目の届くところにあり気付いた職員が同行するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や職員会議等で普段からも注意をするようにし防止に努めている。		

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターに講師依頼し、勉強会開催した。利用者で活用されている方がおられ支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間をとり説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、介護報酬等の料金改定がある場合も個々に説明をし同意書をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会議の開催に際し率直な意見を聞き入れ取組、自由に意見が言えるよう「御意見箱」を設置している。又 得られた意見は職員や法人に相談し、今後反映できるよう対応しています。	ホーム行事終了後、家族会を開催したり、家族の面会時に「ご意見はどうですか」と声掛けをするなど不満、意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。出された意見はミーティングをしてサービスの質の向上に向け対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを多く取るように心掛け職員の意見に耳を傾けるよう努めています。会議などで話し合いの場を設けている。月1回は職員全員参加の会議を設けている	月1回全職員が参加し、職員からの要望、気づきを話し合う場を設けている。職員の声に耳を傾け活かされている場面もあるが、不満や苦情が十分に把握されていない。	運営や苦情について職員の意見を十分に聞き耳を傾け活かしていくことは、職員の働く意欲の向上や質の確保、利用者の満足にも繋がり前向きに検討することを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が毎月の目標を持ち努力をして達成した時は、それを認め向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を段階、レベルに合わせて行っている。県主催の外部研修など職員が意欲的に参加の申し出がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH議会へ参加し、複数事業所連携で職員の交流を行う計画書作成中。		

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様、ご家族様と面談を行い、プライバシーの保護に十分配慮しながら安心して相談できる雰囲気作り、心配なく利用できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様、ご家族様と面談を行い、ご本人様の状態やご家族様の思いを汲み取り安心して入居していただけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談窓口は常に地域包括センターや他事業所と連携しており適切なサービスができるようしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活者として生きれるように支援するところなので、残された能力を充分発揮できる場を提供できるように話し合いながら共に支え合い、人生の先輩として尊厳をもって接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員本位にならず、家族との外泊や外出を定期的に計画し、家族様との絆を深めるように努力しよい関係づくりに努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩や地域の行事に参加する事で馴染みの人々とのふれあいを楽しみ、大切にしてきた地域との関係が途切れないようにしてる	行きつけの美容室の出張サービスや仲の良い同施設内の利用者がホームに訪ねてくることもある。また、八幡さんのお参りに行き馴染みの人との出会いを喜ぶ場面も見られる。近所の人や馴染みの人との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の会話の懸け橋となれるよう心がけ、利用者が孤立しないように努め、お互いの状態を理解し合い支え合うようサポートしている。		

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内を出している。退所後の提携医からの協力もいただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者の意向を伺えられるよう努力しています。又 家族様からご本人の生活歴等を聞き取り、利用者本意のケアができるように心がけます。	食事の後片付けなど共働りの中で時間を作り、利用者の思いや希望を把握している。また、訪問時、家族からいろいろな情報を得ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自室には家族の写真やお気に入りの物を置き、入居前のアセスメントや、趣味、嗜好など、発見したことを付け加え職員会議で話し合い、ケアに活かしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していただけるように、生活のリズムの把握に努めています。職員会議や普段のコミュニケーションの中で利用者様の情報を共有し統一したサービスが提供できるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の思いはもとより、ご家族様の意向や主治医のアドバイスも取り入れ、担当者会議を踏まえて介護計画を作成し目標の達成度定期的に評価して見直しを図っている。	電話や家族の訪問時に状態を報告して、意向を把握して、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。職員から評価、提案を出しているが、話し合いが十分されず介護計画に反映されていない。	日々介護計画について話し合う機会を持ち、意見や気づき、アイデアを出し合い、職員間で話し合った結果をもとに介護計画を作成されることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し朝・夕の申し送りで、情報を共有しながらケア方針を決めて実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に合わせた入浴時間の変更や食事形態の変更、出前サービスの利用など多彩なニーズに合わせるように努力している		

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の避難訓練や町内会、社協、子供ボランティア、老人クラブ、近くの保育所・小学校との定期的な交流、理髪ボランティア、レクボランティア等の協力を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の定期往診を実施 緊急時は主治医との連帯を図り、往診や指示を得ている。又 その都度、家族様に報告をしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を選ぶことができる。入居前から患者として顔なじみで、そのままホームの主治医となっている利用者が多い。かかりつけ医も提携医と同様に月2回の往診もあり、主治医との連携が取れており、往診の結果を家族に連絡している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、異常が感じられるときは看護師に日常的に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の医療との連携や施設の受け入れ態勢を十分に説明し、ご本人様やご家族様が安心していただけるような対策に心がけています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人様やご家族様の意向を聞いている。又 状態の変化に応じ、十分に担当者会議を開催し、できる限りご本人やご家族の意向に沿えるようにしている。緊急時に備え、近隣の病院の協力体制もとっている。	入居時や状態の変化に応じ本人、家族の意向を聞き、意向に沿えるよう支援している。今までに老衰で食事が取れなくなり、点滴を実施するなど、2名の看取りを経験している。ホームで対応できない時は近隣の病院との強力体制をとっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、GH職員全員が普通救命講習重厚の申込みを済ませている。講習日8月19日		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交え、年2回(内1回夜間想定)の避難訓練を実施しており、災害に対しての心構えについては会議等で話し合っている。緊急連絡網の作成、配布、周知徹底できている	消防署の協力を得て利用者も参加し、夜間想定を含む年2回の避難訓練を行っている。災害に対して水やお粥など非常食の準備はあるが、地域の人々の参加がない。	地域住民や他の事業所などの参加を呼びかけ、避難訓練を行うなど地域との協力体制を築くことを期待したい。

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人が培ってきた豊富な生活の知恵を充分発揮できるような場を常に提供し、利用者の尊厳を重んじ人生の先輩として敬う姿勢を意識しています。	裁縫のできる人は着物を解きのれんを作り、生活歴や趣味を活かす場を用意し、教わるなど経験豊富な人生の先輩として敬っている。また、利用者個々の呼び方は利用者に喜ばれる呼び方にするなど配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気の中で、馴染みの職員がゆっくり利用者の話を傾聴し、職員の価値観を押し付ける事なく、ご本人様自身で判断できるように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間、就寝時間、居室の環境など画一的に行なうのではなく利用者の気持ちを優先した個別ケアができるよう支援し、介護計画に基づき個別ケアを実施している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や食後の歯磨きなど常に清潔に気を配っている。季節にあったその人なりの好みの洋服を家族や職員と一緒にそろえ、希望時に美容師に来てもらって身だしなみを整えている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の嗜好や健康状態に合わせた食事を提供している。臭いや食事の準備の音を五感を使って感じてもらい、食欲増進に繋げ、調理、配膳、後片づけも、得意なところで手伝ってもらっている。	食材は委託しているが、野菜の皮むきや味付け、後片付け等を職員と共に利用者の活躍の場がある。誕生会には、刺身やちらし寿司など特別なメニューを選ぶことができる。また、利用者の希望により外食に出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、日頃の食事の中で利用者様の嗜好を少しでも理解できるように努め、食事摂取・水分摂取の把握をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。夜間は入れ歯をきれいにし外してもらっている		

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し不快のないよう、個々に合わせたトイレ誘導、サポートをしている。	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し誘導したり見守りをしている。むくみや利尿剤服用の利用者はパッドの当て方を工夫する等排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を摂るようにして、日常生活の中で適度の運動を促し、個々の排便リズムをつかみ出来る限り自然排便を促すための工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望で週3回から毎日の入浴を実施している。その日の本人の気分や体調に応じ時間など柔軟に対応している。	入浴は主に午前中に行い、利用者は「朝風呂は小原庄助さんや」と喜んでいる。職員が2人いれば、7時までは午後や他の日の入浴できるように支援している。風呂は個人風呂で手すりや浴槽の縁に座るスペースもあり安心感がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整と静かな環境に気を配り快適に入眠できるようにしている。生活のリズムを整え、休憩もその時々でサポートしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し服薬には職員一人一人が責任を持って確実に服用できるように支援している。又 主治医との情報提供も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今ある個々の能力に合った仕事や役割をしたり、レクリエーションや趣味を楽しんでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、本人の気分に合わせて散歩、ドライブに出かけられるよう支援しています。利用者の希望に沿って、車を使っての遠出を計画し生活に楽しみや喜びを持ってもらえるように努力している	近くの八幡さんへお参りや散歩に行ったり、農協や笠松駅に特産物、切り花やおやつを買いに行くなど日常的に外出を支援している。帰宅願望のある利用者には外出やドライブに出かけるなど、本人の思いを受け止める対応を行っている。	

グッデイすぎないグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時は、家族様より小額を提供していただき、個人で好きな物を購入し支払いができるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じサポートしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には花が絶えない。共同のスペースは整理整頓を心掛け、居心地がよく、活動しやすい場所とできるよう努めています。	広いフロアーは光が入り開放感がある。季節の花を活け、利用者の作品を飾り、数ヶ所にソファがあり、ゆったりできる。冬にはテーブルを移動させホームこたつを置くように、家庭的な雰囲気を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の気の合う、合わないを考慮して、席を決めているが、その日の本人の気分によって席は自由に座っていただき、会話等していただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人様やご家族様を含め、持ち込むもの、新しく購入する物を話し合いながら居室づくりをしています。	居室には使い慣れた日用品が持ち込まれている。また、家族の写真、好みの花を飾り、仏壇には位牌が置かれ、花、果物をお供えするなど、本人が居心地よく過ごせるよう居室づくりをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止がご利用者様の行動を制限しないよう必要最小限でおさえるよう努めています。ご利用者様の身体の状態に合わせ、その都度住環境を整えるように努めています。		